



平林小学校のビオトープ

平林小学校の児童玄関に向かって左手、様々な木々に囲まれた一角に、「ビオトープ」がある事を、みなさんにご存じでしょうか？

ビオトープは生命(バイオ)と場所(トープ)を合わせた言葉で様々な生き物が共生している空間という意味があり、生態系として捉えることの可能な最小の地理的単位で空間の大きさに関わらず動植物が安定して生息出来る空間とされ、失われつつある地域の自然を復元し、生き物を守ることを目的として作られたものです。



自分が小さかった頃は、学校からの帰り道、友だちと今日何して遊ぶか考えながら下校し、川へハゼ釣りに行ってみたり、虫取り網と水槽を持ち、トンボやカナヘビを捕まえて観察したり、田畑の横にある農業用水路に虫取り網を突っ込んで、カエルやオタマジャクシ、ゲンゴロウを捕まえたりするのが日課でした。

今思うと、「危険、近寄らない!!」と看板が立っているようなところでしょうが、当時はゲーム機や携帯電話もなく、親たちも仕事で忙しく、いい意味でのほったらかし。思う存分自然と一体化していたように思います。

たまにやらかして、用水路にはまってびしょびしょに濡らして帰り、洗濯するのが大変でしょ！落ちたのは自分の責任、気を付けて遊びなさいと注意されたりしました。



超ロング昼休みやまちづくり協議会の用事で新しい小学校に行き、ビオトープを眺め、何か生き物がいるかな？とのぞいてみるのですが、落ち葉や泥が水の中に堆積されていて、何かが動く様子も見られず、かといって掃除するには大変な労力と時間がかかることも、PTA で経験済み。



きれいなビオトープで子供たちに、いろんな生き物を見つけさせてあげたいと思いますが、ビオトープの維持管理が難しい状態となっています。今後のビオトープの維持管理について地域の皆さんと一緒に考えませんか？

